

〈六月の言葉〉

坂村真民 著 「二日一言」より

どんとう

「鈍刀を磨く」

鈍刀をいくら磨いても
無駄なことだというのが
何もそんなことばに耳をかす必要はない
せつせと磨くのだ

刀は光らないかも知れないが
磨く本人が変わってくる

つまり 刀が「すまぬ」、「すまぬ」と
言いながら

磨く本人を光るものにしてくれるのだ

じんじんみみよう

そこが 甚深微妙 の世界だ
だから せつせと磨くのだ